

2017/2018 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (ワールドカップは別紙参照)
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
 - ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長 (強化担当副部長である 1 名) が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
 - ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
 - ・ 本選考基準において、協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。
1. ワールドカップ第 1 戦ヘレンベーン大会 (11/10~12、500m~5000m・Ms・TP・TS)・第 2 戦スタヴァンゲル大会 (11/17~19、500m~10000m・TS)・第 3 戦カルガリー大会 (12/1~3、500m~5000m・Ms・TP・TS)・第 4 戦ソルトレークシティ大会 (12/8~10、500m~5000m・Ms・TP)
 - ※ Ms (マススタート)、TP (チームパシュート)、TS (チームスプリント)
 - ※ 第 2 戦では女子 3000m/男子 5000m に替えて女子 5000m/男子 10000m が実施
 - ※ 男女 500m は、第 1、2 及び 4 戦はそれぞれ 2 本、第 3 戦はそれぞれ 1 本実施

【選考方針】

平昌冬季オリンピックにおける日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待

できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (5)、1000m (4)、1500m (4)、5000m (3)、10000m (3)、Ms (2)、TP、TS

女子：500m (5)、1000m (5)、1500m (4)、3000m (5)、5000m (5)、Ms (2)、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第24回全日本スピードスケート距離別選手権大会

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mの派遣選手は、当該種目の最上位者から順に選考する。
- (2) 女子5000m及び男子10000mの出場枠のうち、女子2名、男子1名の派遣選手は、女子3000mまたは男子5000mに選考された最上位者から順に選考する（ここで選考された選手は、女子5000m及び男子10000mの派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する）。残りの派遣選手は、すでに選考された者を除く選手の中で、当該種目における最上位者から順に選考する。
- (3) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、男女1500m、女子3000m、男子5000mの各種目上位6位以内の成績を残した者から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は2番目とする）。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (4) 男女マススタートの正選手各2名（枠順位1及び2番目）と補欠選手各1名は、当該種目に参加した者の中において、男女1500m、女子3000m、男子5000mのいずれかの種目で上位8位以内の成績を残した者、または男女マススタート上位3位以内の成績を残した者から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。また、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (5) 対象競技会にエントリーしている選手の内、対象競技会での転倒や一時的な疾病などのアクシデントが認められた場合、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）の協議により、総合的な検討によってその選手を選考する場合がある。その場合、上記(1)～(4)の基準によって選考された者の内、男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男女5000m、男子10000mでは最も下位の順位で選考された選手、男女チームパシュートでは補欠選手、男女マススタートでは枠順位2番目の選手が、当該選手との入れ替わりの対象となる。
- (6) 男女チームスプリントは、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及

びナショナルスプリントチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第1戦における各種目のエントリー順は、選考基準の記載順序に従った選考順によるものとする。
- ・ ワールドカップ第3及び4戦の男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、ワールドカップ第1及び2戦の成績やドクターの意見などを総合的に検討し、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）の協議による必要性の判断に応じて、(1)又は(2)により選考された選手と、上記(1)から(7)までの基準で選考された選手の範囲内で入れ替えを行うものとする。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、必要に応じて行うものとする。

2. ワールドカップ第5戦エアフルト大会（1/19～21、ドイツ・エアフルト、500m～5000m）

【選考方針】

平昌冬季オリンピックを見据えて、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (5)、1000m (5)、1500m (5)、5000m (5)

女子：500m (5)、1000m (5)、1500m (5)、3000m (5)

※ 男女500m、男女1000mはそれぞれ2本実施

【選考基準】

対象競技会：平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) 平昌冬季オリンピックにおける日本代表選手に選出された者で、当該競技会への出場を希望する者を、以下の手順で選考する。
 - ① 平昌冬季オリンピックにおける出場予定種目と同じ種目を希望した場合、優先的に選考する。
 - ② 平昌冬季オリンピックにおける出場予定種目と異なる種目を希望した場合、残りの枠の範囲内で選考する。なお、希望選手数が日本の出場可能枠数を超えた場合は、当該派遣選手団の監督が、選考方針を考慮した総合的な検討を加えながらエントリーの優先順位を決定する。
- (2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 当該競技会への出場可能選手は平昌冬季オリンピックにおける日本代表選手に選出された者に限られる。

3. 世界スプリントスピードスケート選手権大会（3/3～4、中国・長春）

【選考方針】

世界スプリントスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子 2 名、女子 2 名

※ ただし、ワールドカップ第 5 戦の成績により、男女ともに最大 3 名まで出場枠が増える場合がある。

【選考基準】

対象競技会：平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) すでに付与されている出場枠の派遣選手（男女各 2 名）は、対象競技会において、男女それぞれ、500m と 1000m のタイムの合計ポイント（ISU ルール第 265 条 3 項に従う）を算出し、その最上位者から順に選考する。
- (2) ワールドカップ第 5 戦の成績によって出場枠が増えた場合は、この第 5 戦における男女 500m と男女 1000m（いずれもタイムの良い 1 本）のタイムの合計ポイントを算出し、その最上位者から順に選考する。
- (3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ (1) において選考された選手の辞退等により当該大会への出場枠に余りが発生した場合は、(1) における合計ポイントによる次点者が選考される。
- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

4. 世界オールラウンドスピードスケート選手権大会（3/10～11、オランダ・アムステルダム）

【選考方針】

世界オールラウンドスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子 1 名、女子 2 名

※ ただし、ワールドカップ第 5 戦の成績により、男女ともに最大 3 名まで出場枠が増える場合がある。

【選考基準】

対象競技会：平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) すでに付与されている出場枠の派遣選手（男子 1 名、女子 2 名）は、対象競技会において、男女 1500m と女子 3000m・男子 5000m のタイムの合計ポイント（ISU ルール第 265 条 3 項に従う）を算出し、その最上位者から順に選考する。
- (2) ワールドカップ第 5 戦の成績によって出場枠が増えた場合は、この第 5 戦における男女 1500m と女子 3000m・男子 5000m のタイムの合計ポイントを算出し、その最上位者から順に選考す

る。

(3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ (1) において選考された選手の辞退等により当該大会への出場枠に余りが発生した場合は、(1) における合計ポイントによる次点者が選考される。
- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

5. ワールドカップ第6戦（最終戦）ミンスク大会（3/17～18、ベラルーシ・ミンスク、500m～5000m・Ms・TP・TS）

※ 男女500mはそれぞれ2本実施

【選考方針】

ワールドカップ第6戦で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～5戦までのポイントランキングにより、各種目は以下の通り滑走可能選手数が制限される。

- ・ 500m、1000m、1500m、女子3000m及び男子5000mは最大12名（500m、1000m、1500mは24位以内、女子3000m及び男子5000mは20位以内がそれぞれエントリー可能）
- ・ Msは最大16名（24位以内がエントリー可能）
- ・ TP及びTSは最大6か国（8位以内がエントリー可能）

~~※ Msにおいては、グランドワールドカップランキング8位以内の選手もエントリー可能であり、優先的に出場権を得ることができる。~~

【選考基準】

- (1) 個人種目の各出場枠の派遣選手は、滑走可能選手数に相当するワールドカップポイントランキング（500m～5000mは12位、Msは16位）以内の選手を選考する。
- (2) 男女チームパシュートは、ワールドカップ第4戦終了時におけるポイントランキングが6位以内となった場合、派遣する。この場合、男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、当該年度にワールドカップ代表（個人種目含む）となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、当該年度における国際競技会における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (3) 男女チームスプリントは、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルスプリントチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 5 戦終了時に各国のエントリー状況を確認し、エントリー可能範囲内の選手（500m～1500m は 13～24 位、女子 3000m 及び男子 5000m は 13～20 位、Ms は 17～24 位）を選考する場合がある。

6. 世界大学スピードスケート選手権大会（3/22～25、ベラルーシ・ミンスク、500m～10000m・Ms・TP・TS）

【選考方針】

世界大学スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待でき、将来オリンピック等国際大会でメダルが期待できる大学生選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男女各 2 名

【枠数】

男子：500m（4）、1000m（4）、1500m（4）、5000m（3）、10000m（3）、Ms（2）

女子：500m（4）、1000m（4）、1500m（4）、3000m（3）、5000m（3）、Ms（2）

【選考基準】

対象競技会：平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) 平昌冬季オリンピック日本代表選手（最大で男女それぞれ 8 名または 10 名）に続く競技力を有すると判断される者を選考する。すなわち、第 23 回オリンピック冬季競技大会（2018／平昌）日本代表選手選考基準（後述）において、平昌冬季オリンピック日本代表選手選出後、本競技会の派遣可能人数に至るまで引き続き（4）の手順に従って選考する。
- (2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ エントリー種目は、選考された選手の特性等を検討し、当該派遣選手団の監督が決定する。
- ・ 平昌冬季オリンピック日本代表選手となった者は、本競技会の代表選手には選考しない。
- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

第 23 回オリンピック冬季競技大会 (2018/平昌) 日本代表選手選考基準

【決定の方法】

平昌冬季オリンピックへの派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 以下の通り制限される。
 - ・ 国際スケート連盟 (ISU) ルール 209 条によって決定される出場資格数
 - ・ ISU によるオリンピック特別参加資格のクラス分け (SOQC)
 - ・ ISU による参加標準記録
 - ・ 平昌冬季オリンピックに関する最新 ISU コミュニケーションの詳細
 - ・ 日本オリンピック委員会 (JOC) により日本スケート連盟に与えられる出場選手枠数
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、他種目の正選手として選考されている者の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長 (強化担当副部長である 1 名) の協議により、平昌冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、出場可能な選手を選考する。
- ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。

【派遣可能人数】

SOQC による日本に配分された種目別出場枠により、以下の通り設定される。

- ・ マススタートとチームパシュートを含め、すべての種目について出場枠を配分された場合～男女各最大 10 名
- ・ それ以外～男女各最大 8 名

【枠数】

SOQC により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子 : 500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、5000m (3)、10000m (2)、Ms (2)、TP

女子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、3000m (3)、5000m (2)、Ms (2)、TP

【選考基準】

対象競技会：平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

- (1) 男女チームパシュートの正選手各3名は、当該年度にワールドカップ代表（個人種目含む）となった選手、および対象競技会の男女1500m、女子3000m、男子5000mの各種目上位6位以内の成績を残した選手の中から、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、ワールドカップ第1～4戦における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、(3)以下の条件により選考された選手の中から出場可能な選手1名をそれぞれ補欠として選考する。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (2) 男女それぞれにおけるマススタートの派遣選手は、出場枠が1名だった場合、又は出場枠が2名だった場合の1名は、以下の(3)以降の手順で選考する。残りの1名および補欠1名は、(3)以下の条件により選考された選手の中から出場可能な選手を、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。ただし、最終的に派遣選手団が派遣可能人数（男女それぞれ8名または10名）を満たさなかった場合（同一の選手が多くの子を埋めた結果、最大派遣可能人数に至る前にすべての子が埋まった場合）、この残りの1名および補欠1名は、(3)以下の条件により選考された選手の中に限定することなく、出場可能な選手を選考することができる。また、この残りの1名および補欠の選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (3) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000m、男女マススタートについて、以下の手順で選考する。

① ワールドカップ競技力の作成

- i 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mにおいては、ワールドカップ第1～4戦のそれぞれについて（500mが2本ある場合は1本ごとに）、種目ごとにディビジョンAおよびBを通してのタイムランキングを作成する。その後、出場選手ごとに、ワールドカップ第1～4戦におけるタイムランキングの順位の中央値を求め（算出方法詳細は下記の特記事項参照）、これを当該種目におけるワールドカップ競技力とする。

※例えば、ワールドカップ第1～4戦の男子1000mにおける各レースのタイムランキングが次のとおりであった場合、中央値は次のとおり算出される。

	WC 第1戦	WC 第2戦	WC 第3戦	WC 第4戦	中央値
日本選手①	2	4	1	6	2
日本選手②	9	52	6	5	6
日本選手③	10	52	7	50	10

- ii 女子5000m、男子10000mにおいては、ワールドカップ第2戦におけるディビジョンAおよびBを通してのタイムランキングにおける順位をワールドカップ競技力とする。
- iii 男女マススタートにおいては、ワールドカップ第1～4戦のポイントランキングの順位の中

中央値を求め、これを当該種目におけるワールドカップ競技力とする。

- ② それぞれの種目について、ワールドカップ第4戦終了時のワールドカップ競技力が3位以内の場合、以下の条件を満たしていたならばその最上位者を選考する。

条件：ワールドカップ第1～4戦におけるそれぞれのレースにおいて、ディビジョンAおよびBを通してのタイムランキングが3位以内となった回数

- ・男女500m～3回以上
- ・男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000m、男女マススタート～2回以上
- ・女子5000m、男子10000m～1回

- (4) 残りの出場枠の派遣選手は、以下の手順で選考する。

① 各種目の枠数配分

男女それぞれの派遣可能人数から、(1)～(3)までで派遣が確定した選手数を控除した残りの枠数を次の手順で各種目に配分する。すなわち、男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男女5000m、男子10000m、男女マススタートといった各種目を通じたワールドカップ競技力における日本選手の順位を比較し、上位の成績を収めた種目から1枠ずつ、派遣可能人数の残りの枠数に達するまで配分する。ただし、男女マススタートについては、(3)②の基準を満たす者がいた場合は本項での枠の配分は行わない。(※)

※例えば、男子の残りの枠数が3で、男子のワールドカップ競技力が次のとおりであった場合、500mに2、1000mに1の枠数が配分される。

500m	1000m	1500m	5000m	10000m	マススタート
1	2	4.5	5	4	4
3	7.5	6	8		9
10					

- ② 対象競技会における当該種目のタイムの最上位者から順に、①で設定した各種目の枠数に至るまで選考する。なお、男女マススタートについて枠が配分された場合は、ワールドカップ第4戦終了時のワールドカップ競技力における順位の最上位者を選考する。

- ③ ②までの手順で派遣可能人数（男女それぞれ8名または10名）を満たさなかった場合（同一の選手が枠を埋めた場合など）、派遣可能人数に至るまで①による枠数の配分を増やし、②に従って引き続き枠数に至るまで選考する。

- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 各選手のワールドカップ競技力の作成において、それぞれの種目における中央値の算出に使用するレース数（データ数）は下表の通りとし、各選手の好成績のレースから必要データ数の分だけ抽出することとする。なお、ディビジョンAおよびBを通してのタイムランキングの作成において、出場辞退・棄権（途中棄権含む）・失格はいずれも当該レース出場者における最下位（タイムを有する者の次の順位）として扱う。

	男女 500m	男女 1000m	男女 1500m	女子 3000m	男子 5000m	女子 5000m・ 男子 10000m	男女 マススタート
ワールドカップ 第1～4戦実 施レース数	7	4	4	3	3	1	3
中央値算出使 用レース数	5	3	3	2	2	1	2

※使用するデータ数が1つの場合はその値を、2つの場合はその平均値を中央値に替えて採用する。

- ・ 上記(1)～(3)の基準を満たした選手は、対象競技会(平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会)への参加を前提として選考されるものとする。ただし、怪我等のためやむを得ず対象競技会に参加できなかった場合は、その詳細な理由や平昌冬季オリンピック時の状態を見通しつつ、選考対象とする場合がある。
- ・ 上記(4)①の基準において比較した日本選手の順位が同順位の場合、同順位となった種目に次の枠を与えた場合に②において選考されることになる選手の対象競技会における種目順位を比較し、上位の者の種目を優先する。なお、この際の順位も同順位であった場合、またはマススタートが同順位の対象となった場合は、JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長(強化担当副部長である1名)の協議により、平昌冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、優先順位を決定する。ただし、この決定は、強化委員会の出席者(選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く)の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- ・ ~~各種目のエントリー順位は、対象競技会における順位によるものとする。なお、男女マススタートのエントリー順位は、当該派遣選手団の監督が平昌冬季オリンピックでの活躍を前提とした総合的な検討を加えながら決定することとする。~~
- ・ 男女チームパシュートおよび男女マススタートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、対象競技会以降におけるタイムトライアルの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルオールラウンドチームヘッドコーチの協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ 各種目(マススタート、チームパシュートを除く)における正選手と補欠選手との入れ替えは、対象競技会以降におけるタイムトライアルの成績やドクターの意見などを総合的に検討し、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長(強化担当副部長である1名)の協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ 上記の基準において、協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カガリー ソトレクジティ ウルチ	その他		カガリー ソトレクジティ ウルチ	その他
500m	40,00	40,50	500m	36,20	36,60
1000m	1.20,00	1.21,00	1000m	1.11,90	1.12,80
1500m	2.03,00	2.05,00	1500m	1.51,00	1.52,50
3000m	4.24,00	4.28,00	5000m	6.48,00	6.52,00
5000m	7.25,00 又は 4.15,00(3000m)	7.32,00 又は 4.20,00(3000m)	10000m	13.40,00 又は 6.35,00(5000m)	13.50,00 又は 6.40,00(5000m)

※ 対象競技会は、2016年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、全日本スプリントスピードスケート選手権大会、平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。

【オリンピック参加標準記録】

女子		男子	
500m	39,50	500m	35,70
1000m	1.18,00	1000m	1.10,50
1500m	1.59,50	1500m	1.48,00
3000m	4.12,00	5000m	6.30,00
5000m	7.20,00 又は 4.08,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.25,00(5000m)
Ms*	2.10,00(1500m)	Ms*	1.57,50(1500m)

※ 上記標準記録は2017年7月1日から2018年1月14日の期間に達成されなければならない。

※ 対象競技会は、ISU選手権大会、ワールドカップ、すべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第110条に従う）、カントリーマッチ（ISUルール第110条に従う）、国内選手権大会等（全日本スピードスケート距離別選手権大会、平昌オリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会）とする。

※ チームパシュート（TP）とマススタート（Ms）にエントリーするためには、少なくとも1つの参加標準記録を達成していなければならない。

※ 上記「Ms*」はマススタートのための特別の参加標準記録となる。500m～10000mまでの上記参加標準記録を達成していなかったとしても、男女それぞれ最大1名のみ、この特別の参加標準記録を達成していればエントリーすることができる。

【派遣標準記録】

女子			男子		
	A 標準	B 標準		A 標準	B 標準
500m	38,39	39,75	500m	35,04	35,60
1000m	1.16,51	1.19,23	1000m	1.09,46	1.11,03
1500m	1.57,99	2.01,74	1500m	1.47,10	1.49,61
3000m	4.08,41	4.17,42	5000m	6.24,24	6.36,69
5000m	7.15,41	7.34,07	10000m	13.23,63	13.57,14

- ※ 対象競技会は、2017年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。
- ※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2015年度及び2016年度WC（カルガリー・ソルトレークシティ以外）の各種目8位のタイムの平均値をA標準、各種目1ポイント獲得順位（男女500m、男女1000m、男女1500mは29位、女子3000m、男子5000mは30位）のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2014年度WCソウル大会及び2016年度WCヘレンベーン大会の各種目8位のタイムをA標準、各種目1ポイント獲得順位（いずれも26位）のタイムをB標準とした。
- ※ 男子10000mについては、派遣B標準記録以内であったとしても、ISUワールドカップ参加標準記録（5000mでの6.40,00又は10000mでの13.50,00）以内のタイムを有していなければ派遣対象とはならない。
- ※ Msの派遣標準記録は1500m～10000mまでのいずれか1つを対象とする。